



# 謹賀新年

令和4年

## 年頭のご挨拶



理事長  
江部 和人

新年明けましておめでとうございます。  
皆様には良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2022年は、十二支の中で、36年に一度訪れる五黄の寅年になり、特徴として「決断力と才知」があるとされ、さらには最強の金運の年でもあるとも云われています。

さて、新型コロナウイルス感染症による、世界的蔓延により、東京2020オリンピック・パラリンピックが約1年延期して開催されました。

東京での開催は57年ぶりとなる、世界が一堂に会したスポーツの祭典でありました。各種競技のアスリート達が活躍し、見る者に感動を与え、かつてないほどの団結と連帯感を示してくれました。

新型コロナウイルス感染も第5波から激減し、かつての生活に戻る期待をかもし出しております。しかし、今後も当面は変異株ウイルスとの戦いが続くものと考えます。

今年の4月には、診療報酬改定が予定されております。現在、厚労省と関係機関に於いて、新型コロナウイルス感染症への対応、医療従事者の働き方改革等、審議中ではありますが、国の医療費抑制策もあり、従来にも増して厳しい改定になるものと思われまます。

本年の取り組みとしまして、病院ではICTの促進の一環として、昨年7月に電子カルテ導入を行いました。医師、職員の協力も有り、大きなトラブルもなく、運用を行っており、診療報酬改定にも対応できる状態になっております。今後は各職場に於いて効率的運用を行い、患者様、利用者様へ今まで以上に、適切な治療～退院・在宅支援が出来るよう努めてまいります。

コロナ禍での変化の一つに在宅医療、在宅ケア

を希望する方が増えたことがあります。これは病院や施設で面会が出来ない事が大きく影響していると考えられ、その弊害の多さにも気付かされました。リモート面会も導入しましたが、効果は限定的です。やはり同じ空間で顔を合わせ、会話、励まし、笑いあうなどは何ものに代えがたいものであると痛感しました。当法人としては、感染対策を講じながら、出来る限り面会をしてもらう体制を継続していきたいと思ひます。

また、昨年5月には「こころはす小針」居宅介護支援事業所、及びユニット型ショートステイ29床を傘下に加えまました。各関連施設に於いて、利用者のニーズをしっかりと捉え『こころはす「小針」「西蒲」「亀貝」「槇尾」「五十嵐」』を医療・介護・福祉各事業が地域関係機関と連携、協調して事業の安定運用を継続的に行ってまいります。更に2つの訪問看護(リハビリ)ステーションも各地域において、その存在感を発揮して、着実に実績も上げております。今後も地域の要望に応え、各地域での拡張を目指してまいります。

当該地域に於いても、人口構造変化による、医療ニーズの変化や後期高齢者の増加と少子化が急激に進む背景があります。我々としても、基本理念「地域のオアシスを目指します」に則り、立つ位置を明確に、求められる病院として、地域の方々が、安心・安全な生活ができる支援体制を目指します。

皆様にとりまして、金運に恵まれ、最良の五黄の寅年になりますことをご祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

